

歴史・文化をビジュアル化する日本人

松尾 和彦

北川和夫・美佐子夫妻と言えばキューピーコレクターとして有名ですが、実はそれだけではありません。

夫妻のコレクションを展示している思い出博物館(現在休館)は京都珍百景に選ばれるほどの場所として知られていますが、ただ単に珍百景として一括りにしたのでは魅力を百分の一も語ったことになりません。

この度そのコレクションを紹介する「歴史・文化をビジュアル化する日本人」という本が出版されました。いささか長い題名ですので以後「歴史文化」とさせていただきます。

その「歴史文化」を紹介することといたします。

堅苦しい感じのする題名からすると専門職だけが手に取る学術書のように思われるかもしれませんが、コレクションを紹介する内容で写真を豊富に掲載していて誰にでもどこからでも楽しめる内容になっています。

第一章「思い出博物館」では神話の天岩戸から力道山の街頭テレビまでを出版物、玩具、人形等を駆使して日本の歴史を紹介しています。

その視点は時として正攻法、時としては裏から見るといった具合に硬軟取り混ぜたものになっている辺りがコレクションの幅広さを語っています。

第二章「モダンガールに魅せられて」は、大正デモクラシーから昭和初期のモボ・モガを当時の人気絵師であった高島華宵・竹久夢二・小林かいち・中原淳一らの作品を紹介しています。近代化・都市化が進んだ時代に会ってモダンガール(モガ)と呼ばれた女性たちは、旧来の束縛から解放されて洋髪・洋装姿で街を闊歩します。このようなモガの出現によるデパート等の広告宣伝、化粧品の変化等は、まさにビジュアル的なものでした。

メインとも言えるのが第三章「逸品珍品を語る」で、かつて古美術骨董の情報月刊誌「小さな蕾」に四十三回に渡って連載された夫妻合作のエッセイで、系統立てているようで立てていない、立てていないようで立てているという面白味のある文章とともにコレクションを紹介しています。

このようにビジュアル化していった先人達並びに蒐集を行った北川夫妻の長年に渡る努力に感謝をいたします。

夫妻のコレクションは型に嵌らない面白さがあり、最初に紹介しましたように誰にでもどこからでも楽しむことが出来ます。このコレクションを監修した石川肇氏の労力にも同様に感謝する次第です。

歴史文化は青幻舎よりの出版で価格は本体 2,700 円＋税となっています。是非一度お手に取られることをお勧めする次第でございます。

